

平成 30 年 12 月

全国大学音楽教育学会会員 各位

全国大学音楽教育学会関西地区学会会員 各位

全国大学音楽教育学会関西地区学会  
会 長 山 岸 徹  
(学会印省略)

## 全国大学音楽教育学会関西地区学会 平成 30 年度 後期研究会開催のご案内 (最終案内)

拝啓 初冬の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は関西地区学会にお力添えを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、予てよりお伝えしておりました「全国大学音楽教育学会関西地区学会 平成 30 年度後期研究会」の詳細が下記のように決定しましたのでご案内申し上げます。

今回は会員による9件の研究演奏発表と1件の研究口頭発表、及び奥 忍先生をお迎えしてのご講演を予定しております。

新年早々の開催ではございますが、万障お繰り合わせの上、ご参加下さいますようお願いいたしております。なお、研究会終了後、情報交換会も予定しております。

まずは、取り急ぎご案内申し上げます。時節柄、一層のご自愛のほど、お祈り申し上げます。

### 記

1. 名 称 全国大学音楽教育学会 関西地区学会 平成 30 年度 後期研究会
2. 日 時 平成 31 年 1 月 6 日 (日) 13:00 開会 (12:30 から受付、16:45 ごろ終了予定)
3. 場 所 三木楽器開成館  
〒541-0057 大阪市中央区北久宝寺町 3-3-4 TEL 06-6252-1820  
\*大阪メトロ (地下鉄): 御堂筋線「本町駅」より徒歩 3 分、同「心斎橋駅」より徒歩 9 分
4. 研究会参加費 会員 1,000 円、一般 2,000 円、学生 500 円
5. 情報交換会費 6,000 円  
\*お支払いは、当日受付にてお願いいたします。  
\*平成 30 年度の年会費 (7,000 円) も未納の方は同時にお納め下さい。  
なお、会費および情報交換会費などは、釣り銭のないようにご用意下さい。  
\*平成 30 年度の年会費 (7,000 円) が未納で、後期研究会にご欠席の方は、1 月 6 日までに下記へお振り込み下さい。  
振込先: ゆうちょ銀行 総合口座 記号: 14220 番号: 1167961  
加入者名: 全国大学音楽教育学会・関西地区学会  
※他の金融機関から振り込んで頂く場合:  
支店名: 四二八 店番: 428 預金種目: 普通預金 口座番号: 0116796
6. 内 容 学会諸連絡 (13:00)、研究口頭発表 (13:15)、研究演奏発表 (13:45)  
(開始予定時刻) 講演 (15:15) 講師: 奥 忍 先生  
演題: 「楽しい音楽の学び」から「音楽の楽しい学び」へ
7. 情報交換会 17:30~「梅の花」本町店 大阪市中央区博労町 3-5-1 御堂筋グラントワー 21F  
\*会場より徒歩約 5 分 TEL 06-6258-6533
8. 申込み方法 12 月 21 日 (金) 【必着】  
\*同封の返信用ハガキ (会長宛) で研究会、情報交換会の出欠をお知らせ下さい。  
欠席の場合も必ず返送して下さい。  
\*情報交換会につきましてキャンセルされる場合は、必ず前々日 (1 月 4 日) までに事務局にお申し出下さい。当日になってキャンセルされる場合は会費をいただきます。  
\*一般の方のお申し込み、お問い合わせは E メールにて下記までお願いいたします。  
事務局長: 永井正幸 E-mail m-nagai@osaka-aoyama.ac.jp

## 《研究口頭発表》

1. 安本 末味 (大阪府立東百舌鳥高等学校)  
高等学校の能鑑賞における体験と協働学習の効果についての一考察

## 《研究演奏発表》

1. ピアノ独奏 田中 慈子 (京都光華女子大学)  
シューベルト作曲：「4つの即興曲」作品90より 第4曲 変イ長調
2. ピアノ独奏 小谷 朋子 (常磐会短期大学)  
ドビュッシー作曲：「映像第1集」より『水の反映』  
\* \* \* \* \*
3. 独 唱 篠原 美幸 (大阪教育大学) ピアノ 丸井 理恵 (常磐会学園大学)  
田中 ナナ作詞／中田 喜直作曲：「おかあさん」  
サトウ ハチロー作詞／中田 喜直作曲：「小さい秋みつけた」  
文部省唱歌：「冬景色」  
林 古溪作詞／成田 為三作曲：「浜辺の歌」
4. 作品発表 山岸 徹 (大阪キリスト教短期大学)  
独唱 桐山 由香 (大阪青山大学)・ピアノ 山岸 多恵 (兵庫教育大学)  
三浦 照子作詩／山岸 徹作曲：「縹色の刻 (はなだいろのとき)」  
\* \* \* \* \*
5. ピアノ連弾 久野 以早夫 (東京福祉大学名古屋キャンパス)、藤本 逸子 (東海学園大学)  
モーツァルト作曲：「四手のためのピアノソナタ」K.521 より第2楽章
6. ピアノ連弾 鷺見 三千代 (園田学園女子大学短期大学部)、古庵 晶子 (京都ノートルダム女子大学)  
ビゼー作曲：『こどもの遊び』作品22より  
1「ぶらんこ」、2「こま」、12「舞踏会」
7. ピアノ連弾 西本 由香 (兵庫大学)、永井 正幸 (大阪青山大学)  
アレンスキー作曲：『子どものための6つの小品』作品34より  
1「おとぎ話」、5「子もり歌」、6「ロシアの主題によるフーガ」
8. ピアノ連弾 白倉 朋子 (大阪芸術大学)、深田 直子 (大阪総合保育大学)  
ドビュッシー作曲：『小組曲』より 3「メヌエット」、4「バレエ」
9. ピアノ連弾 川畑 尚子 (大阪キリスト教短期大学)、山内 信子 (聖和短期大学)  
ピアソラ作曲・山本京子編曲：「リベルタンゴ」

## 《奥 忍 先生のご講演について》

奥 忍先生からは、ご講演の要旨としまして次のような文章をいただいております。

\* \* \* \* \*

### 「楽しい音楽の学び」から「音楽の楽しい学び」へ

日本の音楽学習はこれまで「楽しさ」に重点があったように思われる。「音楽は楽しくなくてはね」が前提になってカリキュラムが組成され、教材が選ばれていたように思われる。各種音楽教材の中に短調の曲が余り見られないのはその一つの表れであるだろう。「楽しい音楽」を求める結果、音楽について考えたり理解することはおろそかにされる。結果として、小学校1年生の「音楽」の教科書から五線譜が掲載されているにもかかわらず、「楽譜が読めません」と臆面もなく述べる大学生や社会人を私たちは育ててきたように思われる。

他方、外国の学校を訪れると、子どもたちが「音楽の授業」で「学び」をしていることに驚かされる。幼稚園児も身体を動かしたり、歌ったりしながら音楽の構造に気づき、その気づきが次の学びへと繋がっている。日本の音楽教育と何が異なるのだろうか。

今回の研究会では、この機会に「楽しい音楽」だけでなく、「悲しい音楽」「気持ちを昂揚させる音楽」「語りかけるような音楽」など様々な音楽を「楽しく学ぶ」方法についてご参加の方々と一緒に考えてみたい。

以上